

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900119		
法人名	医療法人 啓信会		
事業所名	グループホーム リエゾン羽東師		
所在地	京都市伏見区羽東師古川町168-1		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切にしたいケアを心がけ、ゆったり楽しく過ごして頂けるよう努めています。協力病院も近隣にあり、必要に応じ受診、往診の対応が可能です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani+trun&JigyosyoCd=2690900119-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊83-1 「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伏見区の西部にあり長岡京市と隣接して農地や古い民家も多くある由緒ある土地柄を大切にしている地域です。昨今は新興住宅や大小の多くの工場や大きな介護施設も建設されている地域にあります。母体である医療法人「啓信会」が展開している地域密着型施設のリエゾングループの認知症生活介護事業所で、平成22年3月開所し今年で3年目です。オープン当初は古い土地柄もあり、地域との連携は円滑にはいかなかったのですが、「リエゾン」の意味である「つなぎ、橋渡し」の語源通り、利用者、家族とのつなぎをし、散歩等でだんだん顔見知りもでき、地元の馴染みが出来た農家から採れたての新鮮な野菜を購入し、安心安全な食材を食事に活用されています。また食事には糖尿食や減塩食にも力を入れて、利用者に喜ばれて信頼できる関係が築かれています。利用者には「安心感」があって「落ち着いた生活」が送れるよう、職員は「笑顔」を大切に、モットーである「ゆったり楽しく暮らせるよう」を実践されています。一方、家族の参加や地域への参加や交流が少ない事や、居間の共有スペースの過ごしやすい環境等については課題があると思われしますので、職員間で検討され、一層の工夫をされることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として[地域の皆様と共に支えあって、ゆっくり楽しく暮らしましょう]を掲げ、利用者の皆様と笑顔で過ごせるよう努めている。	入職時に法人の理念の研修を行い、理念を基に事業所では「いつまでもこの町で暮らせる安心を・・・」をモットーに職員間で掲げ、月1回のミーティングでパートの職員も含め全員で「理念を基に行動しているか」を振り返りを行い、理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(すこやか学級・羽東師神社祭・保育園との交流)に参加している。また、散歩時にあいさつを心掛けている。	近隣の介護施設のコンサートに参加したり、近所の保育園の運動会に招待され園児と交流している。職員が地元の人もいて、町内会には未入会であるが情報は得て、すこやか学級や地元の祭りは参加している。散歩の途中では畑仕事をしている地元の人と会話を交わすなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	すこやか学級や運営推進会議等で話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で利用者さまの様子や状況を伝え、意見や要望を聞きサービス向上に活かしている。	2ヵ月毎開催され地域包括支援センター・民生委員・小規模多機能管理者等や家族、利用者の参加も時々あり情報や意見交換している。例として、災害時のトイレの水不足が心配なため(水を風呂場に水を貯めておいては)の意見が出され備蓄の参考にし実行に移している。しかし構成メンバーには偏りがあり、会議内容の記載は少ない。	開設3年目に入り地域との関係づくりも大分構築できつつあるが自治会の参加がない事や関係機関の出席が少ない。また家族の参加も同じ人に偏っている等が見受けられるため運営推進会議メンバーの構成については呼びかけ等の工夫をして、充実した会議になるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの方とも連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	伏見区役所には、運営上小規模多機能の職員が運営推進会議の議事録を持参しており、直接訪問する事は少ないが、電話で報告・相談をして連携を取っている。伏見区地域密着会議に出席し、地域包括センター等関係機関と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修に参加し理解を深めている。自動ドアは日中は施錠していない。	法人内で内部研修を実施している。不参加者には伝達研修を行い、全職員に周知した上議事録に確認印を取っている。普段の言葉使い・声掛け等にも注意を払い、ミーティング等で確認している。現在帰宅願望の強い方が入所されたので、落ち着かれるまで、3Fの出入り口はロックしている。	

京都府 グループホーム リエゾン羽東師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修に参加し理解を深めている。声掛けなど、スタッフ同士注意をしあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	24年1月に権利擁護についての研修を実施しているが、その後はできていない。ご利用者のなかには、利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学して頂き、家族の不安や疑問に答えている。契約時にも説明し理解、納得して契約して頂いている。入居後であっても疑問点があれば説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に現状報告し意見や要望を聞き、運営に反映させるようにしている。	1階の玄関口に自由に見れるよう会議録を置いてある。日常的に会話の中から意見や要望を聞き取り、運営推進会議に反映するようにしているが、個人的な問題が多く、全体的な要望・意見は少ない。外食会など一緒に参加できる企画を作ったり、利用明細は取りに来てもらうよう等して意見や要望を聞く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	毎日のミーティングや個人ヒアリングで職員の意見を聞いている。例として、昨年使っている「記録書式が書きにくい」という職員からの意見を反映し、法人でグループホームの書式を統一したり、「職員体制の手薄になる時間を見なおしてほしい」の意見があり、勤務時間を一部変更し、円滑にサービス提供が行えるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に意見や希望を聞き働きやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度の導入により、研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHとは、1～2カ月毎に会議を開き、情報交換している。GH協会が主催する勉強会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い情報収集し、職員一人ひとりが入居者の声に耳を傾け、その声をケアに活かし、職員との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い家族の希望等を聞いている。また、面会時にご利用者の様子を伝え、家族からの相談に応じ信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の意向を話し合い希望や必要とされるサービスを含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりを尊重し、その人らしい生活ができるよう支援し、共に生活するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、普段の生活や身体状況等を伝え本人の情報共有に努めている。また、受診等を利用し家族と一緒に過ごして頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会や外出を自由に行って頂いている。	知人や友人が訪ねて来られたら、ゆっくりと過ごしていただけるようお茶等をだして寛いでもらえる雰囲気を持ち、一緒に過ごせるよう配慮している。馴染みの関係の支援の例としては、競馬が好きだった人には淀の競馬場が近い事もあり、ドライブ場所に選び、馬をまじかで見て楽しんでもらう等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間のトラブル時には、スタッフが仲裁に入り対応している。座る席にも配慮しスタッフも一緒になりそれぞれが和やかで良い関係でいられる様、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等から相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に意向を聞いたり、日々の様子を記録し情報収集し希望に添えるように努力している。	家族から昔の話のエピソードを聞いたり、利用者本人からは、日頃の表情・言葉・しぐさ等様子を観察して、喜びや悲しさ・さみしさなどを汲みとり、思いや意向の把握に努めて、個人記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録や家族・本人からの情報収集に努め、また、日々の会話からも情報収集し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り・申し送りノートの活用にて個々の変化等、情報交換し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となってケアプランを作成しているが、定期的なモニタリングやご本人の状態の変化に応じて、プランの見直しをしている。	介護計画は家族・担当者・看護師の出席や主治医の事前照会意見を参考にして作成している。モニタリングは毎月、全職員にモニタリング用紙を配布して、記載を行い、ケアマネジャーはモニタリング結果を参考にし、定期的にサービス担当者会議を開催して必要に応じてプランの変更など行っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入と申し送りノートの活用にて情報の共有に努めている。状態の変化等あればケアプランの見直しをしている。		

京都府 グループホーム リエゾン羽東師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診や外出に同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方に来ていただき、歌や踊りを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期受診を家族に行ってもらっている。必要に応じて看護サマリーで情報提供したり、職員が同行することもある。	かかりつけ医への定期受診は家族の付き添いを基本に行っている。家族が付き添えない場合や緊急時の受診は職員が行っている。受診時には、日頃の状況を記録したノートを持参し変化などわかるように努めている。また、主治医は情報提供をしあい、精神科に受診をして、薬を出してもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の勤務であるが、緊急時は電話対応で連携を図っている。家族への医療的な説明や医療機関への情報提供等の実施もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	病院に面会に行き、医療機関より情報収集している。入院時にはサマリーを送付し情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針を打ち出し、入居時に家族に説明している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」は作成し契約時に説明を行い、状態の変化時には家族に説明や確認を取って意向を確認する仕組みにはなっているが、事例はまだなく、今後は具体的な受け入れのマニュアルなどを現在構築途中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにて対応している。内部研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は日中や夜間を想定し年2回行い、ご利用者も参加している。浴槽に水を溜め火災や水道トラブルに備えている、また、食品等の備蓄も行っている。	消防の訓練は、消防署の指導を受けて実施しているが、近隣の方への呼びかけなどコンタクトはとっていない。また、自警団には訓練の案内をしているが、今の所参加はない。災害時の備蓄は水・レトルト食品等3日分整っている。	近所との馴染みがまだ薄く、関心が低い。呼びかけの方法として、運営推進会議に消防署を招いて近所に参考になる話題を提供してもらう等されてはいかかが。また避難通路に物が置いてあるのは問題があるため、物品の整理について職員で協議されてはいかかが。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、ご利用者一人ひとりに合った声掛けをするよう心掛けています。入浴介助などできるだけ同性介助をするようにしている。	内部研修や伝達研修を行い、全職員が理解して日頃のケアに役立てている。「その人が嫌がる言葉を使わない」「命令口調で声掛けしない」など細かく気配りしている。プライバシーの配慮では「掛け声は大きな声でしない」「入室はノックして入る」など職員同志でも互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に耳を傾け、自ら決定できるような言葉かけをするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、ご利用者のペースを優先して過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にビューティーヘルパーに来てもらい散髪等している。洋服選びもご利用者と一緒に行い好みの服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて野菜を切ったり、盛り付けを手伝っていただいている。季節感を味わえるような献立を工夫している。	その人に応じて職員と一緒に、盛り付け・配膳・洗い物などしてもらい食の楽しみや関心が生まれるよう支援している。献立は職員が利用者の好みや栄養価を考えながら作成し、法人の栄養士が確認している。季節の行事食を随時取り入れ、変化を持たせ、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病気に応じた食事の提供をしている。栄養士に献立をチェックしてもらいアドバイスをもらっている。食事量を記入し把握に努めている。		

京都府 グループホーム リエゾン羽東師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後重点的に行い、夜間は義歯を預かり洗浄剤を使用している。自歯の方は歯磨きを行う等して口腔内を清潔に保ようとしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を用い、排泄パターンを把握し声掛けや希望時に誘導をしている。	排泄記録を取り、ひとり一人の状態を把握して、声掛けや誘導を行い自立支援を行っている。また仕草や精神的な変化をくみ取りながら対応している。夜間のみポータブルトイレ使用の希望者もあり個別に支援している。紙パンツから、昼間は綿パンツに移行できる失禁が減った人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや、朝食時にヨーグルト・牛乳の提供、トイレ内での腹部マッサージを行い、できる限り自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者それぞれ入浴日は決まっているが、ご利用者の希望・体調・用事等で融通が利く体制にしている。	週3回の入浴を基本にしているが、あくまでも利用者のその日の体調や希望も考慮して行っている。入浴拒否の場合は無理強いしないで、時間をずらしたり気分を変える様な支援を行って入浴してもらっている。湯温は希望を聞き対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換を行い清潔な寝具の提供や、空調にも気配りをしている。眠れないと不安を訴える方には、寄り添い話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用している薬の一覧を作成し薬のセットを行い、服薬直前にも名前、いつの薬か、日付を声に出し本人の前で再確認する等、服薬ミスのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップでの掃除や、洗濯物干し、たたみ、食器洗いや食事の手伝いを職員と一緒にしている。また、散歩やカラオケ・ボランティアへの参加で気分転換を図れるよう努めている。		

京都府 グループホーム リエゾン羽東師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩やドライブ・食事等に出かけようしている。家人にも外出依頼をしているが、家人の都合もあり殆ど実施できていない。	天気の良い日等は、宇治植物園へ行きレストランで食事をしたり、ドライブや買い物に出かけている。年間行事を計画し外出は行っているが、個別の日常的外出は職員異動のため行いにくくなっている。	今後勤務体制等を調整して日常的な外出の支援が整うよう検討する事が課題である。地域の方も気軽に上がって訪問しにくいというハンディがあっても、工夫次第で解決策を見出す事ができるのではないだろうか？開かれたホームの運営になるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所にて預かり、必要に応じてご利用者と一緒にお買い物等にでかけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けを行うようにしている。	共有空間は、ワンフロアで明るい雰囲気である。壁には利用者と共に作った折り紙等が貼ってあった。室温は適度で風通しも良いと思われるが、冬場は湿度が低くなり乾燥していた。昼食時はクラシック音楽が流されていたが、音量が大きく気になった。空気清浄機は設置されており、臭気は感じられなかった。個々に其々の場所できつろいでおられた。	居心地は特に問題はないと思われたが、冬場の乾燥対策や音量については配慮されてはどうか。また全体に個人の思いや時代の感じられるフロアにはなっておらず、物足りない印象を受けた。生活感や利用者が生きてきた事が誇りに思えるようなレイアウトを職員間で話し合われてはどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置しており、利用者同士や、スタッフとの談笑、交流の場として活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や装飾品を持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるようしている。	個々人の好みにあわせた居住空間を作っておられる。家族の写真を飾ったり、好みの絵をかけたり、ベッドや布団の位置など思い思いにしておられ、その人の住みやすい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置を行い、ご利用者のADLを把握し自立した生活ができるよう支援している。		